

JA松任青年部

YOUTH SITE



## 【土づくり作業】

10月4日（月）、林中地区の組合員さんの田んぼに肥料をまく作業を行いました。

これは毎年行っている作業で、組合員さんから依頼を受けた田んぼに青年部がトラクターに乗り、肥料をまくという作業です。当日は天候も良く、恵まれた作業日和でした。

作業は順調に進み無事午前中のうちに終わることが出来ました。今後もこういった作業を通して地域の農業にふれあつていければと思います。

～松南支部林中地区～



## 【デンドウジ（伝燈寺）イモの収穫】

～西南支部石川地区青年部～

春の3月に盟友とその子供たちで、上安田デンドウジイモ（里芋）をポットに植え、芽だしをし、6月にサツマイモと同時にデンドウジイモの定植も行いました。デンドウジイモは40本2畝、サツマイモは2種類50本を定植し、順調に育ち、9割近くが成長して

いる様子でした。サツマイモは、金時と安納芋です。

デンドウジイモは、上安田町で明治時代から代々引き継がれ、栽培され続けている里芋の事です。約15年前に『上安田いもの保存会』が発足され、種の保存と商品化を図ってきました。この伝統ある農産物の保存と特産化への取り組みにわが石川地区青年部も協力出来ればと思います、ご指導をいただいて、このデンドウジイモの栽培に初挑戦する事にしました。デンドウジイモは市場で流通している里芋と比べ、ぬめりともち感が強く、独特の風味があるという事です。

サツマイモの収穫は、10月3日に盟友とその家族が参加して収穫しました。大きさもまずまずで、収穫量も最高でした。帰りには、子供たちが袋いっぱいを持ち帰ることができ、大喜びの様子でした。

また、上安田デンドウジイモの収穫は、10月31日に盟友とその子供達で行ったのですが、収穫方法も初めてで町内の方に説明を聞きながら収穫しました。デンドウジイモの株も太く成長していたので掘り上げるのも大変でした。掘り上げたデンドウジイモの株から小芋を取り外し、選別して仕分けを行いました。収穫したデンドウジイモは、収穫コンテナ4つにもなり、大成功となりました。

収穫したデンドウジイモを天日干し、来年度の種芋をとりわけました。



残りのデンドウジイモは、地区で芋煮会を開催する方向で動いていますので地区で採れた野菜と合わせ、デンドウジイモを多くの皆さんに知って頂きたいと思えます。

## 【大根種まきを行いました】

～中央支部～

中央支部では冬野菜の定番『大根』の種植えを実施しました。

皆さんは「大根十耕」という言葉をご存知ですか？古くから言われていることで、「いい大根を育てるには、よく土を耕す必要がある」という意味の言葉です。

なぜ、わざわざこんな表現ができるほど耕さなくてはいけないのでしょうか？ご存知の通り、大根は地面の下に育ちます。ところがこの時、何か障害物があると大根はそれを避けて成長していきます。地中に土の塊や石があると、曲がったり、二股になったりしてしまいます。よく耕すと、土の塊が崩れて無くなり障害物がなくなることで、まっすぐな大根を育てることが出来ます。



青年部活動もこれと同じです。コロナ禍にて今まで実施できていた活動ができないなか、個々の盟友が意見を出し合い、議論し、関係団体とよく揉むことで、障害がなくなったり形を変えて、実施できるようになったりします。『良い活動のためには水面下で全員で努力する』という手間を惜しんではならないのです。

## 【山島ベジタブルフェスティバル～さつまいも掘り～】

～松南支部山島地区～

10月10日(日)に山島ベジタブルフェスティバルと銘打って、サツマイモ掘りを行いました。

本来なら、松南ベジスポフェスティバル、農とスポーツ体験の企画内容としての野菜の収穫体験という形でのサツマイモ掘りを計画していましたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から子どもたち、地域の方の健康と安全を考えてイベントが中止となりましたので、代わりに山島青年部盟友の子ども達のみでの開催としました。

当日は検温、マスクの着用、手指の消毒などの感染対策を行いながら、盟友の子ども達も数人参加してくれて日ごろなれない土と格闘しながら大きく育ったサツマイモを次々と収穫していきましました。自分の顔よりも大きくなったサツマイモに「なかなか抜けない。ねえ手伝って」などと友達同士協力しながらサツマイモ掘りを楽しんでいました。短い時間ではありましたが、子供たちにとっては良い経験につながったと思います。

今年度は新型コロナウイルスにより外出などが制限される中で、本来の形とは違いますが、子供たちが農との触れ合う時間を持てた事、また、こういう企画を立ち上げて実行出来た事が来年に向けての良い経験につながったと思います。山島青年部は今後も地域の子どもたちが農や地域と触れ合うことができるイベントを企画、運営していきたいと考えています。

